

進んでコミュニケーションを図ることができる児童の育成
～思いを伝える楽しさを味わう外国語活動を通して～

1 設定理由

社会や経済のグローバル化が進展し、生活の様々な場面で外国の文化や言語に触れる機会が多くなった。小学校低学年から発達段階に応じて外国語に親しむことは、国際社会を支える一員として、国籍や人種の枠にとらわれることなく多くの人と積極的に関わりを持てるようになるという観点から非常に重要なことであると考え、積極的に異文化と関わりを持ったり、外国語でのコミュニケーションを図ったりすることが、生きたコミュニケーション能力の向上の一助となり、将来的に職業選択の幅を広げたり、生活を豊かにしたりすることができると考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 外国語の音声や基本的な表現方法を楽しみながら学ぶことにより、児童は進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとすることができるであろう。
- (2) 視覚に訴える教具やジェスチャー等を工夫した授業実践を行うことにより、児童に外国語と関わる楽しさを知り、意欲的にコミュニケーションを図ることができるであろう。
- (3) 日常的に外国語に慣れ親しむことができる活動の導入や工夫を図ることにより、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まるであろう。

3 研究内容

(1) 理論研究

- ア 外国語の音声や基本的な表現方法について
- イ 外国語による効果的なコミュニケーション活動について
- ウ クラスルームイングリッシュの定着のための手立て
- エ 教科化に向けた理論研修

(2) 実践活動

- ア 外国語の音声や基本的な表現方法に親しむための指導方法を工夫する。
- イ 視覚に訴える教具や身振り手振りを積極的に取り入れた授業実践の在り方を工夫する。
- ウ イングリッシュデーでの英語の扱い方を工夫する。
- エ 修学旅行や校外学習等で、外国人の方と、コミュニケーションを図る機会を設ける。
- オ アクティビティの系統性を意識した指導方法を工夫する。

4 結論

英語の日常化を意識し、毎日の教育活動の中で英語を使う場面を増やし、英語での読み聞かせやクラスルームイングリッシュの活用により英語を使おうとする意欲が高まってきている。さらに外国語活動の充実を図るためにアクティビティの系統性を意識した指導をしたり、理論研修や教員の外国語スキル向上のための研修を重ねたりしながら、思いを伝える楽しさを味わうことのできる授業実践を行っていきたい。

- 1 研究主題 進んでコミュニケーションを図ることができる児童の育成
～思いを伝える楽しさを味わう外国語活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

1998 年以降、国際理解教育の一環として英語教育を実験的に導入する研究開発校が指定されるようになり、小学校においても総合的な学習の時間や特別活動において英語活動が実施されるようになった。2008 年の小学校学習指導要領の改訂により、小学校第 5 学年及び第 6 学年に外国語活動が位置づけられ、2011 年度の小学校新学習指導要領の全面実施に伴い、第 5 学年及び第 6 学年で年間 35 単位時間の外国語活動が必修となった。小学校の外国語活動においては、音声を中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じ、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことをねらいとしている。2020 年度からは教科化が決定している。5・6 年生より、「読むこと」「書くこと」が加わり、これまでの「話すこと」「聞くこと」と合わせ、4 技能を活用してコミュニケーション能力の基礎を養うことをねらいとしている。

中学校英語科においては、聞くこと及び話すこと、読むこと及び書くことの 4 技能を扱うが、小学校段階では、外国語に親しむ経験を重ねることにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地をつくることが求められている。

コミュニケーションの素地を養うためには、教育活動全般を通じたとりくみが必要であり、そのとりくみの成果として外国語活動における生き生きとした児童の姿を引き出すことができると考えられる。

さらに、国際化が加速する社会情勢の中であって、小学校低学年から発達の段階に応じて外国語に親しむことは、国籍や人種の枠にとらわれることなく多くの人と積極的に関わりを持てるようになるという観点から非常に重要なことであると考えられる。積極的に異文化と関わりを持ったり、外国語でコミュニケーションを図ったりすることができるが、生きたコミュニケーション能力の向上の一助となり、将来的に職業選択の幅を広げたり、生活を豊かにしたりすることができると思う。

そこで、本校では、引き続き 1 学年から 6 学年までの発達段階に応じ、外国の文化や言語に親しむ活動を積極的に取り入れている。また、昨年度の課題を踏まえて、各学年での系統的な活動内容、効果的な資料の扱い方、職員のスキルアップなどの研修をすることで、自信を持って外国語活動に臨むようにしている。更に、外国語活動の日常化を目指し、様々な学校生活の中で意図的に外国語に親しめるよう工夫をしている。校外活動の際には、進んで外国の方と触れ合うようにし、外国の文化や言語に積極的に関わることを児童の育成を目指している。

(2) 学校教育目標から

学校教育目標「心豊かで、たくましく、主体性のある児童の育成」のもと、めざす児童像を次のように設定している。

- よく考え、進んで学ぶ子
- 思いやりのある子

○ ねばり強くたくましい子

「よく考え、進んで学ぶ子」とは、身に付けた基礎的・基本的な知識や技能及び既習内容を十分に活用しながら学習しようとする意欲に満ちた児童の姿を表し、「ねばり強く、たくましい子」とは、自分の考えに自信を持ち力強く行動する児童の姿を表している。外国語活動においては、理解した外国語の音声や基本的な表現方法を活用しながら、失敗を恐れずに意欲的に活動できる児童の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、素直で明るく、与えられた課題については根気強く努力することができる。しかし指示されたことに一生懸命とりくむことができる反面、自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする姿勢に欠ける傾向がある。

稲作を中心に農業を営む家庭が多く、昔からの地域の人々との関わりや風習を大切にしながら生活している。そのため、外国の文化に触れたり、外国語を身近な言語としてとらえたりする機会が乏しい。これまでの外国語活動での他者との関わり方を見ても、自分から進んで外国語で話しかける姿を見かけることは少ない。

これらの実態をふまえ、外国語に親しみ、自分の思いを伝える楽しさを味わうことにより、進んでコミュニケーションを図ることができる児童の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

外国語で自分の思いを伝える楽しさを体験する実践を重ねることにより、外国語でコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図る。

4 研究の仮説

- (1) 外国語の音声や基本的な表現方法を楽しみながら学ぶことにより、児童は、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとすることができるであろう。
- (2) 視覚に訴える教具やジェスチャー等を工夫した授業実践を行うことにより、児童は外国語と関わる楽しさを知り、意欲的にコミュニケーションを図ることができるであろう。
- (3) 日常的に外国語に慣れ親しむことができる活動の導入や工夫を図ることにより、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まるであろう。

5 研究の内容

(1) 理論研究

- ア 外国語の音声や基本的な表現方法について
- イ 外国語による効果的なコミュニケーション活動について
- ウ クラスルームイングリッシュの定着のための手立て
- エ 教科化に向けた理論研修

(2) 実践活動

- ア 外国語の音声や基本的な表現方法に親しむための指導方法を工夫する。
- イ 視覚に訴える教具や、身振り手振りを積極的に取り入れた授業実践の在り方を工夫する。
- ウ イングリッシュデーでの英語活動の方法を工夫する。
- エ 修学旅行や校外学習等で、外国人の方と触れ合い。コミュニケーションを図る機会を設ける。
- オ アクティビティの系統性を意識した指導方法を工夫する。

6 研究の実際

(1) イングリッシュデーの充実

ア 挨拶

児童会主体による英語での朝の挨拶運動をする。

イ 朝の読書の時間での英語による読み聞かせ

担任やALTによる英語での読み聞かせを行う。

「The Three Little Pigs.」「The North Wind and the Sun」「The Very Hungry Caterpillar.」等

ウ 朝の会

朝の会で英語の歌を歌う

「Hello.」「Seven steps.」「Head、 shoulders、 knees and toes.」等
健康観察を英語で行う。

「How are you?」「I'm fine.」「I'm great!」「I'm cold.」等

エ 授業の挨拶

各教科の授業の挨拶を英語で行う。

「Let's start English class.」「Let's start P.E class.」「Let's finish Math class.」

オ 校内放送

「Hello、 everyone.～」

(2) 校外学習での外国人の方との触れ合い

例文をまとめたものをしおりに綴じ込んだ。カタカナを振ったものと英文だけのものを児童に選択させた。

ア 5年生：校外学習の科学技術館にて

「Hello.」「Nice to meet you!」「Where are you from?」等

イ 6年生：修学旅行の鶴岡八幡宮にて

「Excuse me?」「Can I ask you some questions?」「What did you buy in Japan?」等

ウ 2年生：現場学習にて

「Hello.」「How are you?」等



< 5 年校外学習 >



< 6 年修学旅行 >

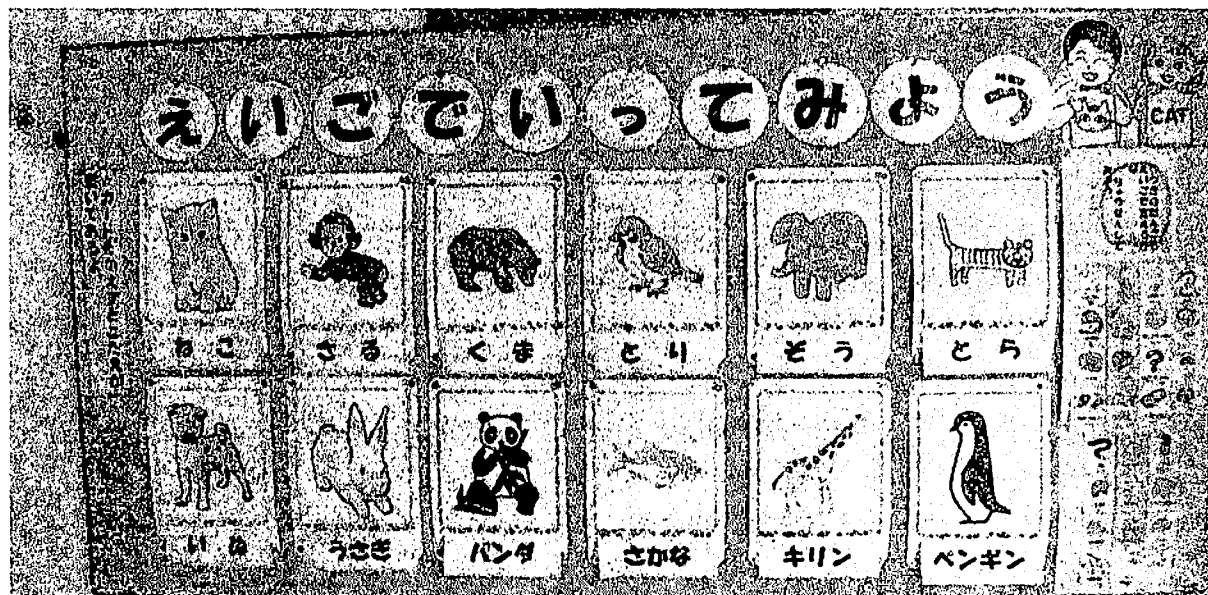


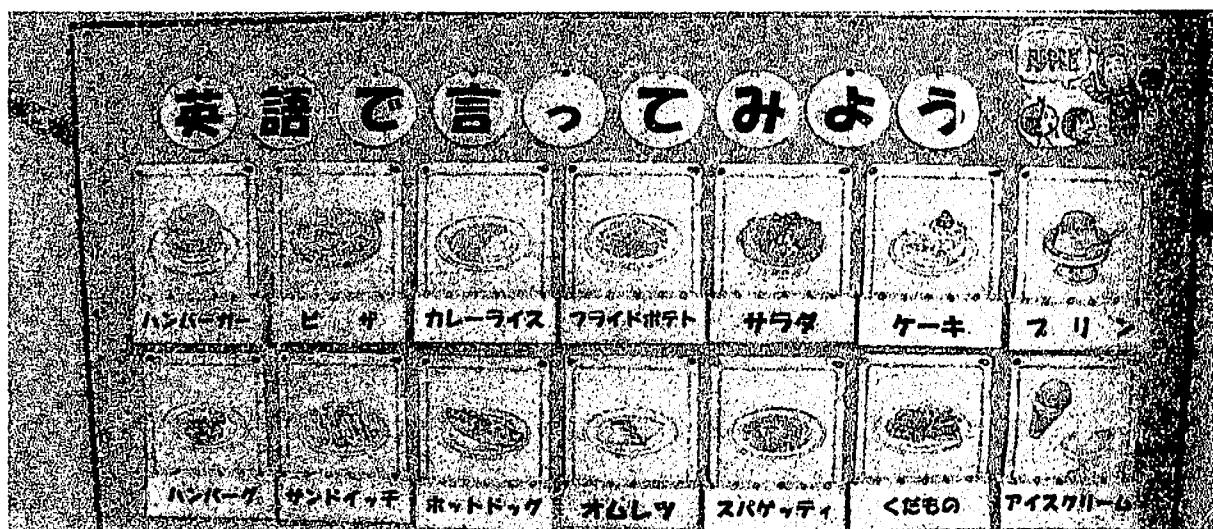
< 2 年現場学習 >

(3) 外国語に親しむことができる環境整備

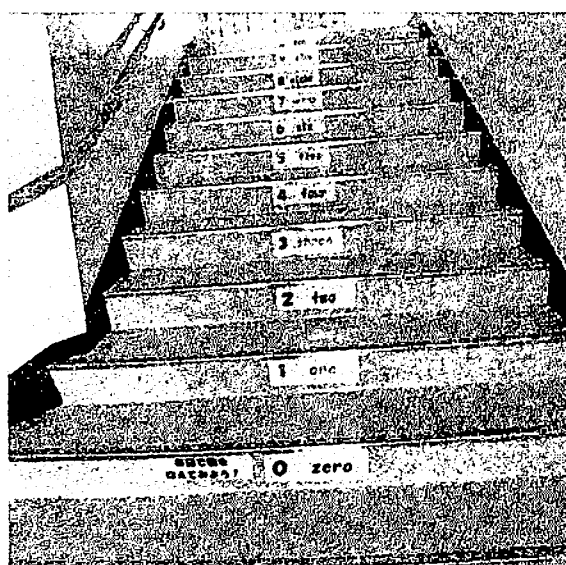


< イングリッシュルーム (外国語活動実施教室) >

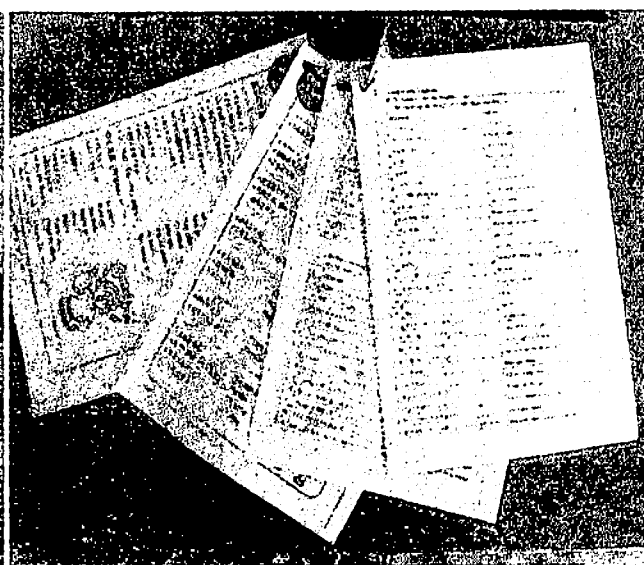




<階段掲示>



<階段掲示>



<クラスルームイングリッシュカード>

(4) 視覚に訴える教具や、身振り手振りを積極的に取り入れた授業実践の在り方の工夫

ア 視覚的にわかりやすい教具の工夫

- ・単元の前あて、授業の流れを記した掲示物
- ・ビクチャーカード
- ・児童の実態に即した Hi、 friends! の活用ワークシート
- ・ブラックボックス
- ・カラーボール

イ 視聴覚機器の活用

- ・CD ・DVD ・PC ・タブレットPC

(5) クラスルームイングリッシュ定着のために

クラスルームイングリッシュをまとめたカードを用意し、外国語活動以外の授業の時間においても、挨拶や指示を英語で行った。

7 授業実践 (資料参照)

8 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア イングリッシュデーだけでなく毎日の教育活動の中で英語を使う場面を増やしたことにより、ALTに英語で話しかけようとする姿が見られるようになった。
- イ 日常化を意識した、クラスルームイングリッシュの活用や英語での読み聞かせなどを実践したことにより、英語を使おうとする意欲が高まっている。
- ウ 視覚的にわかりやすい資料を生かし、思いを伝える楽しさを味わうことのできる授業を目指して実践することができた。
- エ 校内の外国語の掲示物を充実させたことにより、外国語を身近に感じることできる環境づくりができた。

(2) 課題

- ア 1～4年生で行っているアクティビティを、系統性や児童の発達段階を意識したものにし、思いを伝える楽しさを味わうことができるようにする必要がある。
- イ 教員はできる限り英語を使って授業を進めることが理想的である。教員のスキルアップのための研修の更なる充実を図ることや、日本語に頼らず、アクティビティの説明ができるように視覚的資料の充実を図っていく。
- ウ 3・4年の外国語活動や5・6年における外国語活動の教科化に向けた理論研修をさらに充実させ、教職員間の共通理解を深め、先を見越したとりくみができるようにしていきたい。

資料

第 5 学年の実践

H R T

A L T

1 単元名 Hi, friends!1 Lesson9 What would you like?

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、次の内容を扱うものである。

ア 主としてコミュニケーションに関すること

・欲しいものについて丁寧に尋ねたり答えたりすること。

イ 主として言語や文化に関すること

・欲しいものを尋ねたり、言ったりする際、丁寧な表現があることに気付くこと。

・世界の料理に興味をもつこと。

ウ 主として外国語への慣れ親しみに関すること

・欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむこと。

(2) 児童の実態 (男子 10 名 女子 12 名 合計 22 名)

質 問	回 答
1 外国語の学習は好きですか？	・好き (8 名)・どちらかというとき好き (11 名) ・どちらかというとき嫌い (3 名)・嫌い (0 名)
2 塾などで外国語を習っていますか？	・習っている (12 名)・習っていない (10 名)
3 外国語の学習で「楽しい」と感じるときはどんなときですか？ (複数回答)	・ゲーム (14 名)・インタビュー (3 名)・チャンツ (2 名)・ALT との交流 (1 名) ・問題に正解する (1 名)
4 外国語の学習で「いやだ」と感じるときはどんなときですか？ (複数回答)	・難しい単語 (3 名) ・質問に間違えて答えてしまった (2 名) ・チャンツ (1 名)
5 外国語の学習をしていて「よかった」と感じたことはありますか？	・友達と英語で話せた (3 名) ・質問に答えられた (3 名) ・外国人 (ALT、友達、いここ) の話がわかった (3 名) ・外国人とうまく話せた (1 名)

6 自分が欲しいものを英語で言うことができますか？	・言える（12名）・言えない（10名）
7 食べ物を表す単語をいくつ知っていますか？	・0～5個（1名）・6～10個（3名） ・11～15個（5名） ・16～20個（5名）・20個以上（8名） <回答例> ・apple・pineapple・kiwifruit・orange・peach ・strawberry・watermelon・melon・banana ・lemon・egg・broccoli・tomato・eggplant・ ・Hamburg・Hamburger・Pizza・Fried chicken ・rice・Carry and rice など

<コミュニケーションへの関心・意欲・態度>

本学級の児童は、落ち着いて学習に取り組むことができる。また、意欲的に活動に取り組む発表をすることができる児童も多い。しかしその一方で、友達の前で発表することが苦手な児童も一部見られる。実態調査の結果から、8割以上の児童は外国語の学習に対して「好き」「どちらかというとき好き」と答えており、意欲の高さがうかがえる。次に、外国語の学習で「楽しい」と感じる場面については、「ゲーム」「インタビュー」「チャンツ」などが挙げられていることから、外国語を用いたコミュニケーションを楽しんでいる児童が多いことがわかる。しかし、外国語の学習で「いやだ」と感じる場面について尋ねると、「難しい単語が出てきた」ときや「質問に間違えて答えてしまった」「表現することが恥ずかしいと感じる」ときなどを挙げる児童もあり、発表に対して苦手意識を持つ児童が見られる。

<外国語への慣れ親しみ>

本学級の児童は、外国語に対して慣れ親しみを感じ、進んで英語を話そうとしている。これまでの学習の中で、相手が欲しいものを尋ねたり、自分が欲しいものを相手に伝えたりする学習を行った。約半数の児童は“What do you want?”“○○、please.”や、“I want～.”などの表現を身に付けていることが実態調査の結果からわかった。また、食べ物を表す英単語については10個以上知っていると答えた児童が8割を超えており、外国語に慣れ親しんでいる様子が見られる。

<言語や文化に関する気付き>

児童はこれまで、Hi、friends!1のLesson1で世界各国のあいさつについて触れたりLesson2では日本と外国でのジェスチャーの意味の違いなどに触れたりしている。これらの学習から、日本と外国との、言語や文化の共通点や相違点についての気付きを得ている。また、本校では総合的な学習の時間に国際理解教育の推進として特別非常勤講師のヤタワラ・バンニャラーマ氏による異文化理解の学習を毎年実施しており、スリランカの言語や文化について学習している。児童たちは、日本とスリランカの言語や生活様式の違いについて意欲的に学習に取り組む様子が見られる。

(3) 指導観

○ 体験的な活動の場の工夫

本単元の最終的な目標として、ランチメニュー作りをしてお互いに注文し合う活動を行うことを伝え、そのために必要な食べ物を表す語彙や、ほしいものを尋ねたり答えたりする表現を繰り返す活動の場を多く設定していく。フラッシュカードによる練習やキーワードゲーム、ジェスチャーゲーム、インタビューゲームなどを行い語彙や表現を使う回数が増えるような活動を取り入れていく。また、状況によって使う表現が異なることを理解させるため、場の工夫も行っていく。

○ 学習形態の工夫

学級全体で発表することが苦手な児童も見られることから、まずはペアやグループなどの小集団によるコミュニケーション活動を取り入れ、段階的に全体で発表ができるように学習形態を工夫していく。本単元ではパフェ作りの活動をペアで行い、その後ランチメニュー作りをグループなどで行うことで、語彙や表現に慣れ親しませ、自信を持って発表できるようにする。本単元では、場面によって欲しい物を尋ねる表現を使い分けることがあることに気付かせるため教具や雰囲気づくりを工夫し、場面の切り替えをわかりやすくしていく。

3 単元の目標

- 欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- 欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

- 世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。

【言語や文化に関する気付き】

4 単元の評価規準

- 相手意識をもって、丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり答えたりしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- 丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。

【外国語への慣れ親しみ】

- 世界には様々な料理があることや、英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気付いている。

【言語や文化に関する気付き】

5 指導計画（4時間扱い）

時	主 な 活 動	評 価		
		観点	評 価 規 準	評価方法
1 本 時	・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を知る。	気	・欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があるこ	行動観察 振り返りカード

			とに気付いている。	
2	・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	慣	・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。	行動観察 ワークシート 振り返りカード
3	・世界には様々な料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。	気慣	・世界には様々な料理があることに気付いている。丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。	行動観察 ワークシート 振り返りカード
4	・相手意識をもって、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりしている。	コ	・欲しいものについて丁寧な表現で、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。	行動観察 ワークシート 振り返りカード

6 本時の指導

研究の仮説 2

視覚的に分かりやすい教具を工夫したり、身振りや手振りを交えた授業を実践したりすることにより、児童は外国語と関わる楽しさを知り、意欲的にコミュニケーションを図ることができるであろう。

本時では、絵本を用いた導入を行い、食べ物を表す語に対しての意欲を高めていく。また、パフェ作りの活動を通して、欲しいものを尋ねたり答えたりしながら外国語と関わる楽しさを知り、コミュニケーションを図ることができるようにする。

(1) 目標 ○ 丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を知る。

【言語や文化に関する気付き】

(2) 展開

過程時配	学 習 内 容 と 活 動	教師の指導・支援 (㊤㊦) 児童の反応 (☆)
雰囲気づくり 導入 (5)	1 挨拶をして、天気・曜日・日付などについて会話をする。	・元気に挨拶や会話をして、明るい雰囲気を作った。 ㊤ 児童に質問したり、児童からの質問に答えたりした。 ㊦ 児童と一緒に質問に答えたり、ALTの質問の答えを板書したりした。 ☆ 大きな声で挨拶や返事をしていた。

活動 (5)	2 本時のめあてをつかむ。 ほしいものをたずねる言い方を知ろう。	・本単元を通して学習することを確認し、最終的な目標を提示する。 ☆ 単元を通しての目標や、本時の目標を提示したことで、見通しを持って学習に取り組むことができた。
(10)	3 【Let's Play】 ・フルーツを集めて自分のパフェを作る。 ・“What do you want?” “○○ please.” の表現を使って果物カードを集める。	・はじめにHTとALTによるデモンストレーションをする。“What do you want?”の表現に注目させる。 ㊦ 語や表現がわからない児童に助言をする。 ㊦ 語や表現がわからない児童に助言をする。 ㊦ カードが集まらない児童に、英語でやりとりをしてからカードを渡す。 ☆ 意欲的に活動に取り組んでいた。やりとりの回数が多くでき、積極的にコミュニケーションが取れていた。
(10)	4 【Let's listen2】 ・さくら、さくらの祖母が注文したものを聞き取る。 ・HTとALTのやりとりを見て、使っている表現に注目する。 ・“What would you like?” “I'd like ○○.”の表現を用いていることを確認する。	・さくらとさくらの祖母が注文したものについて考えさせる。 ・店員の尋ね方や、さくらとさくらの祖母の答え方について注目させる。 ㊦ デジタル教材の後に、ゆっくりと文を読み上げる。 ㊦ 店員の尋ね方“What would you like?”や、二人の答え方“I'd like ○○”に注目させる。 ☆ デジタル教材の音声では速すぎて聞き取れなかった児童も、ALTのゆっくりとした読み上げにより、聞き取ることができた。
(10)	5 丁寧な表現で欲しいものを尋ねる。 ・ベアを作り、レストランという場の設定で店員役と客役に分かれてやりとりを行う。 ・“What would you like?” “I'd like ○○.”の表現を用いてコミュニケーションを取る。	・HTとALTによるデモンストレーションを行い、場面による表現の違いを考えさせる。 ☆ デモンストレーションから、丁寧な表現があることに気付いていた。 ☆ 丁寧な表現を使ったコミュニケーション

振り返り (5)	6 振り返りカードを記入する。 ・ 1～2名程度感想を発表する。 7 終わりの挨拶をする。	ョンを行っていた。 ・ 感想を書く際には、学習問題に対してのコメントを書かせる。 ☆ 欲しいものを探ねるときに丁寧な表現をすることがあることに気付いていた。 ・ 元気に挨拶をする。
---------------------	---	--

【成果と課題】

1 仮説検証授業に関する成果と課題

仮説②〈視覚的に分かりやすい教具を工夫したり、身振り手振りを交えた授業実践をしたりすることにより、児童は外国語と関わる楽しさを知り、意欲的にコミュニケーションをとることができるであろう〉

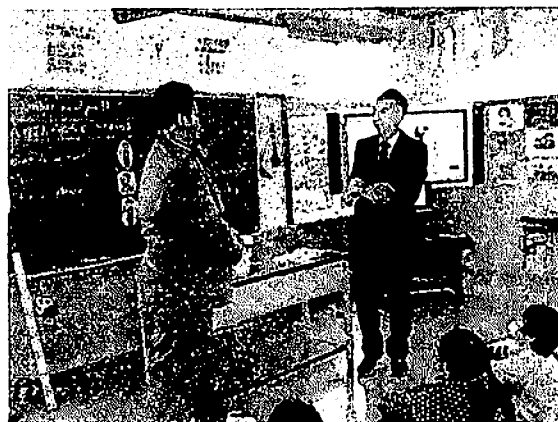
(1) 成果

- 教具の工夫を行い、メニュー表や蝶ネクタイを活用したことにより、レストランなどでは丁寧な表現を使うことがあることに気付かせることができた。
- HTとALTの身振り手振りを交えたデモンストレーションにより、どのようなやりとりをすればよいか理解させることができた。
- 欲しいものを探ねる表現の違いに気付かせ、アクティビティで意欲的にコミュニケーションを取らせることができた。

◎ 学習の様子



フルーツカードを用いたゲーム活動



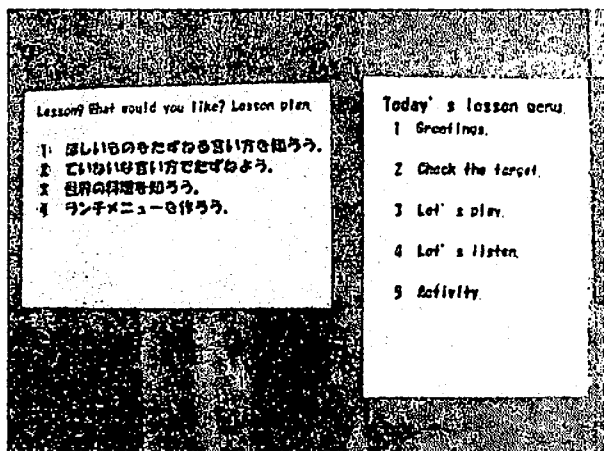
教員によるデモンストレーション



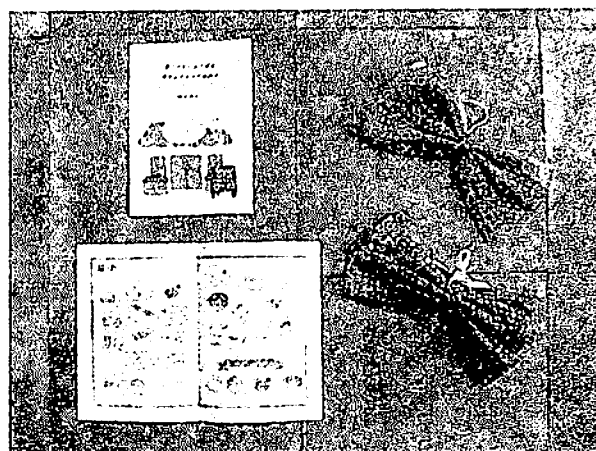
メニュー表と蝶ネクタイを用いたアクティビティ

ペアを交換しながら活動に取り組む

◎ 教具の工夫



単元と本時の流れを示した掲示物



メニュー表と蝶ネクタイ

(2) 課題

- 表現を使い分ける場面を明確に意識させることが出来なかった。その結果、店員役の児童が丁寧な表現で話してはいるが、言い方が稚であることがあった。
- 指示を全て英語で出すつもりでいたが、なかなか伝わらないのではないかという思いから英語で指示を出した後それを日本語で訳してしまい、二度説明することになり、説明に時間がかかってしまった。

2 仮説検証授業後の実践に関する成果と課題

(1) 仮説検証授業後の課題に対する取組

教具の工夫を行う。表現を使い分ける場面を日常的に意識させる。

外国語活動の学習中の指示や発問をなるべく英語だけで行うことを実施した。

(2) 成果

- 身振り手振りを交えながら英語で指示や発問をすることで、大体の児童は指示や発問の意味を理解することができた。
- 日本語訳をなるべく少なくすることで、英語を一生懸命聞き取ろうとする児童が増えた。

(3) 課題

- 個別に支援を要する児童にとっては、英語だけの指示や発問で意味を理解させることが難しかった。
- 新しく複雑なルールのゲーム活動では、英語だけでそのルールを理解させることが難しいため、絵や図などを用いて説明を補助する必要があると感じた。